

## 令和2年度第2回 岡山県障害者施策推進審議会・岡山県自立支援協議会 議事録（要旨）

- 1 日 時 令和2年11月9日（月）  
13：00～16：10
- 2 場 所 ホテルメルパルク岡山3階「芙蓉」
- 3 出席委員 村社会長、石原委員、伊山委員、小川委員、嘉数委員、片岡委員、田中委員、徳弘委員、難場委員、中島委員、永田委員、福田委員、藤井委員、藤田委員、本田委員、眞野委員、薬師寺委員 以上17名（全員出席）
- 4 議事概要（主な質疑応答）

- 議題（1）岡山県自立支援協議会専門部会の活動について  
（2）第4期岡山県障害者計画の素案について  
（3）第6期岡山県障害福祉計画・第2期岡山県障害児福祉計画の素案について

### （1）岡山県自立支援協議会専門部会の活動について

（質疑等なし）

### （2）第4期岡山県障害者計画の素案について

（委員）

意思疎通支援の部分で、視覚障害のある人に対する意思疎通支援の記載が必要だ。

（委員）

新型コロナウイルス感染症の対策について、具体的に今何を推進しているのか書くべきだ。

（事務局）

新型コロナウイルスの関係については、計画の全般を進める上での基本的な視点を記載している。具体的な進め方については、日々、情報・状況が変化するため、その時、その時で、新しい情報を入手して、アップデートした情報に基づいて施策を進めていきたい。

（委員）

計画の基本理念について、これまでの要望中心から、障害のある人自身が社会で活躍するという視点を持つべきだ。

国際交流の推進について、何のために国際交流をするのか明らかにすべきだ。

（事務局）

基本理念について、「障害のある人が自らの能力を最大限発揮し自己実現できるように」と記載しており、障害のある人も自ら参加していただくような取組を支援していく。

（委員）

自殺予防とコロナのことで、県として自殺対策に取り組んでいただきたい。

（事務局）

今年度、自殺対策基本計画を作成している。

(委員)

施設から地域生活への移行について、家庭への移行という発想になっていないか。家族の支援を前提にせず、行政、社会からの支援を前提として、障害のある人たちの生活を考えるべきだ。

アンケートについて、結果を障害区分で分けてほしい。

(委員)

インクルーシブ教育が本当に成立するためには、発達障害に対する十分な支援が必要だ。軽症の発達障害の人たちに対して社会参加支援、就労支援をより充実させるべきだ。

(事務局)

その子どもが学ぶべきところで学んで伸びていくことが保証できる場所を探していく観点で、通常学級、特別支援学級それぞれに、個々の子どもに応じて考えていくことが大切だと認識している。

(委員)

発達障害の程度が軽度の人には、学習はできるがコミュニケーションのスキル、自己管理のスキルが弱いので、社会に出ても崩れてしまう実態がある。特別支援教育の内容充実を考えてほしい。

発達障害の人たちは物を扱うスキルは非常に高いので、高等学校の教育において、もっと実技系の教育コースなどをつくり、地場産業で活躍する人材を育成してほしい。

(委員)

就労支援について、定着支援が大変大事だ。特別支援学校の高等部に入学してくる子どもで、軽度でも発達障害がある子どもたちは、就職できても人間関係や生活のリズムの乱れから離職につながる場合がある。

(事務局)

人との関わりのスキル、気持ちのコントロールを意識して取り組んでいる学校もある。

(委員)

肢体障害に限って言えば、スポーツをした方が身体的、精神的に良い効果をもたらすことが研究で分かっており、このことを明記してほしい。

競技性の高い障害者スポーツのアスリートの育成支援は今後も続けてほしい。

(委員)

今後、発達障害の人たちの実態調査をしてほしい。

数値目標について、レクリエーション教室の開催回数が、現状より下がるのはなぜか。

(事務局)

スポーツ・レクリエーション教室の開催回数について、今年度はコロナの関係で全く開催できていない。来年度以降もコロナの影響が想定されるので、少なくとも目標年度までには、コロナ前のペースに戻したいということで、年50回以上とした。

(委員)

精神科病院の入院患者の地域生活への移行に関連して、グループホームの整備が計画に

記載されていることは良いことだ。ただ、単にグループホームを整備するというのではなくて、2千人以上の方が1年以上入院している状況をきちんと踏まえる必要がある。

障害の程度にかかわらず、地域の中でどうやって暮らしていけるかを考えてほしい。

(事務局)

精神科病院への入院は、その理由など個人によって様々であり、個別に見ないといけない。精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの中で課題として取り組んでいく。

(事務局)

いただいたご意見は、計画にどう反映させていくか検討する。

### (3) 第6期岡山県障害福祉計画・第2期岡山県障害児福祉計画の素案について

(委員)

障害のある子どもへの支援の強度行動障害と高次脳機能障害について、子どもの問題だけではないことと、高次脳機能障害と強度行動障害は質が異なるものであるため、分けて書いていただきたい。

強度行動障害については、受け入れ可能な施設は皆無であり、行き場がない。家庭でも対応に困っており、医療との連携、専門家の養成、専門家による支援体制の整備をお願いしたい。

児童養護施設の子どもたちの退所後の対応についても支援をしてほしい。

(委員)

サービスの見込み量は市町村報告値の積上げだが、現実には障害のある人が使う量としては不十分という印象だ。

バリアフリーについて、施設を作ったときだけ意識するのではなく、それが維持されるべきことも計画に記載すべきだ。

災害時の要配慮者の避難について、市町村からの情報提供が不十分だ。

数値目標のUDアンバサダーの現状値について、令和元年度を0とするのではなく、令和2年度の人数を書くなど検討すべきだ。

就労の部分で、特別支援学校卒業生の就職率があるが、知的障害のある方と肢体不自由の方では就職率は異なるはずで、合算して目標とするのはおかしいのではないか。

(事務局)

強度行動障害については、新しい視点での問題提起として受け止めている。

災害時の要配慮者のサポートは、引き続き、市町村への助言等を行っていききたい。

(事務局)

特別支援学校卒業生の就職率は、国の調査と連動する書きぶりになっている。実際は、目標数値に関わらず、一人ひとりを大事に、それぞれの学校で指導しているが、目標値としては従来通りとしたい。

(委員)

強度行動障害のある人を支援するためには、座学研修だけでなく、行動障害をどう改善するかについて、行動解析・事例検討を行うスーパーバイズの制度を入れながら、少しずつ

つアプローチを修正していくという制度を作る必要がある。

(委員)

福祉サービスの人材不足に対応するため、外国人材の活用を検討すべきだ。

(委員)

空き家を活用したグループホームの整備も選択肢に入れるべきだ。

公共交通機関が発達していない地域において、地域の住民が共助の一環で移送を行っている例など、PRしてほしい。

(事務局)

いただいたご意見は、2つの計画の性格を踏まえ、どちらの計画にどう反映させていくのか検討する。